

令和元年度 能登町教育委員会指定・海洋教育推進事業

# 里海科実践発表



能登町立小木小学校

# はじめに

1. 里海科の実践と教育課程編成について
2. 小木小学校の里海科等の活動紹介・実践例
3. 能登町海洋教育推進拠点校・パイオニアスクールとしての役割
4. 来年度に向けて
5. 成果と課題

## 1. 里海科の実践と教育課程編成

海洋教育『里海科』に取り組んで

### 研究主題

海に親しみ ふるさとにほこりと  
愛着を持つ児童の育成  
～海に関する体験活動を通して～

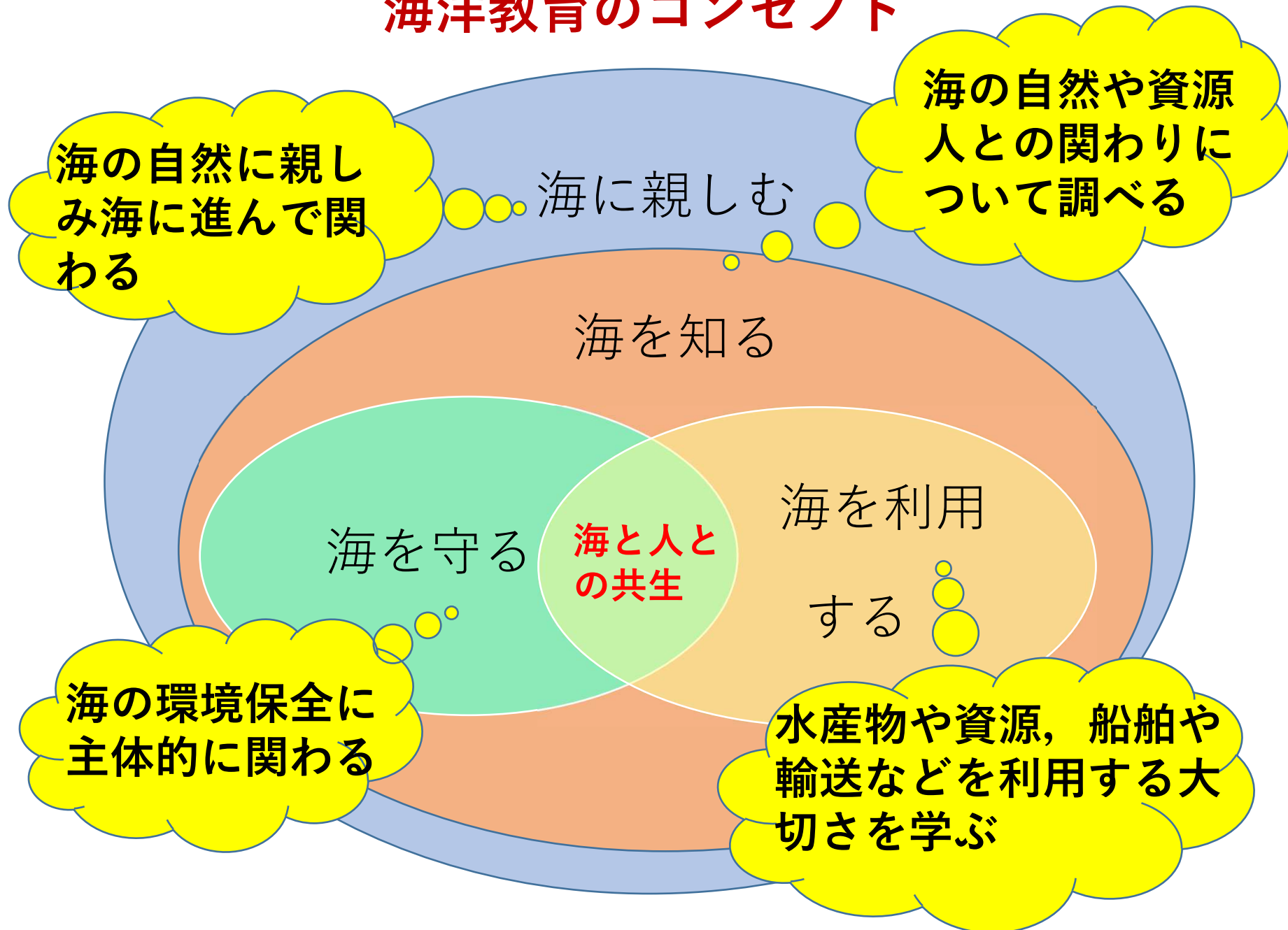
## 目指す児童像

- 海の自然に親しみ，海に進んで関わろうとする児童
- 海の自然や資源，人との関わりについて進んで調べようとする児童
- 海の環境保全に主体的に関わろうとする児童



1. 里海科の実践と教育課程編成

## 海洋教育のコンセプト



海の自然に親しみ海に進んで関わる

海に親しむ

海の自然や資源  
人との関わりについて調べる

海を知る

海を守る

海と人の  
共生

海を利用  
する

海の環境保全に主体的に関わる

水産物や資源、船舶や輸送などを利用する大切さを学ぶ

# 1. 里海科の実践と教育課程編成

## A海に親しむ

- 海を体験しよう
- 漁師の仕事を体験しよう
- 海に関わる仕事を見学しよう
- 海に関わる活動を体験しよう

## B海を知る

- 海の魚について調べよう
- 海の植物について調べよう
- 海の生き物の誕生を調べよう
- 海の生き物の関連について調べよう
- 海を通した文化交流の歴史を調べよう
- 海流や潮の満ち干，海底の地形につて調べよう

## C海を守る

- 日本の水産業と海洋環境について調べよう
- 地球温暖化と海の変化について調べよう
- 海の環境の変化と生き物の暮らしについて調べよう
- 人々の暮らしが海洋に及ぼす影響について調べよう

## D海を利用する

- 日本の水産業について調べよう
- 日本海運について調べよう
- 世界海運について調べよう
- 世界の結びつきと海運の働きについて調べよう
- 日本海洋でのエネルギー開発について調べよう

1. 里海科の実践と教育課程編成

## 海洋教育メインテーマ

1年生

2年生

生活科

3年生

4年生

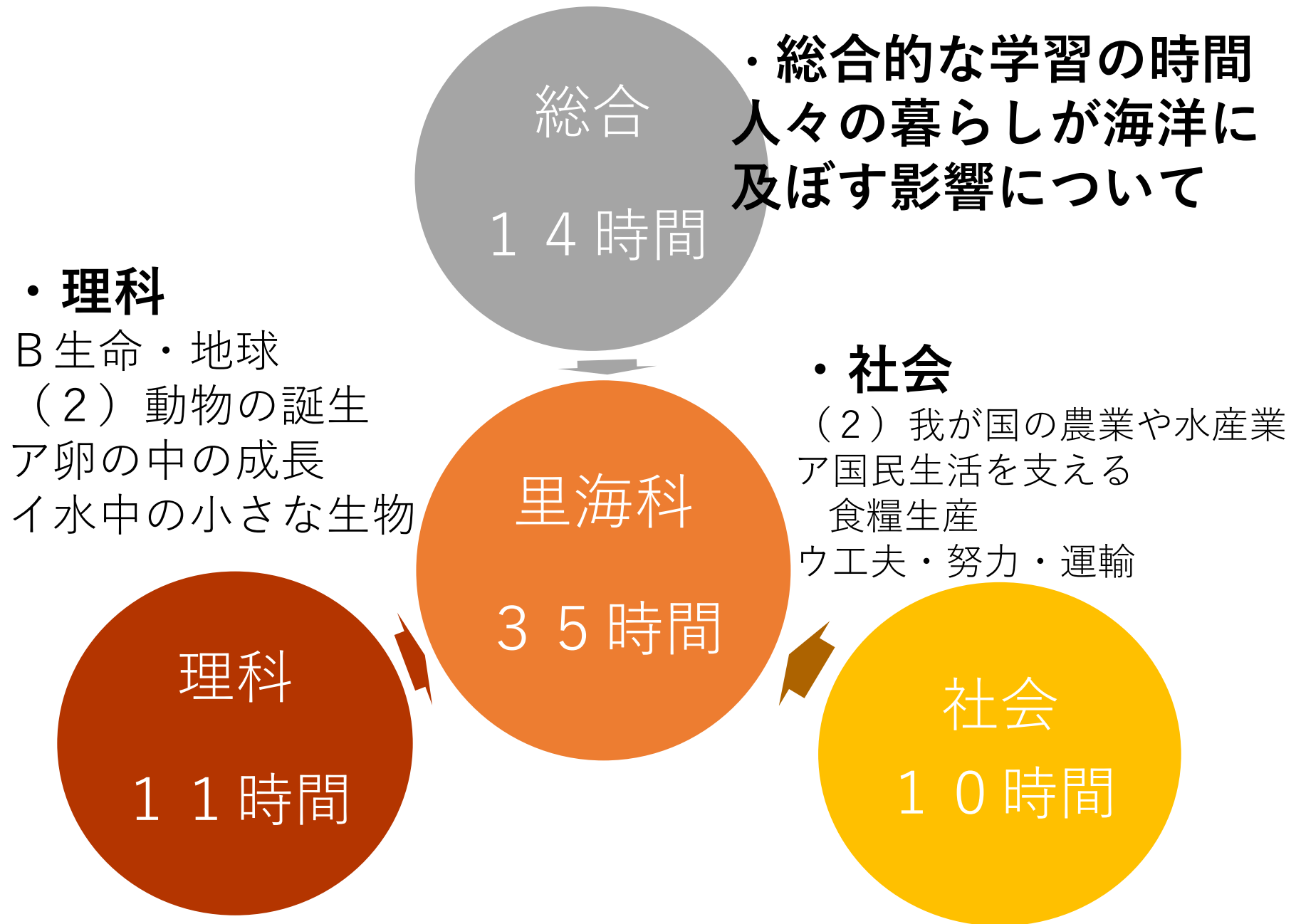
総合的な学習の時間

5年生

里海科

6年生

# 里海科の時数（5年）





# 里海科の時数（6年）

- ・ **総合的な学習の時間**  
漁師の仕事を知ろう

総合

10時間

- ・ **理科**

B 生命・地球

（3）生命と環境

ア 生物と水，空気との関わり  
イ 食べ物による生物の関係

理科

15時間

- ・ **家庭**

B 日常の食事と料理の基礎

（2）栄養を考えた食事  
ウ 1食分の献立

家庭

10時間

里海科

35時間

2.活動紹介・実践例

## 海の植物 A [海に親しむ]

1年生 生活科 15時間

「きせつとともにだち～みなさんこんにちは」



夏と冬の海そうを比較⇒違いに気付く

2.活動紹介・実践例

**海の動物 A [海に親しむ] B [海を知る]**

2年生 生活科 20時間

「生きものといっしょに」



**命の尊さ・生きものへの愛着心**

## 環境学習 C [海を守る]

3年生 総合的な学習の時間 18時間  
「わたしたちの海を守ろう」

### 小木の町の施設・店

- ・スーパーしんや
  - ・小木公民館
  - ・小木港バス停
  - ・海洋ふれあいセンター
  - ・小木クリニック
- など 計10か所



自分たちの海は自分たちで守る

2.活動紹介・実践例

## 地域学習 A [海に親しむ] D [海を活用する]

4年生 総合的な学習の時間

「小木発信プロジェクト～小木の町をPRしよう～」



漁→小木漁協

料理・体→地域の方々

2.活動紹介・実践例

## 地域学習 A [海に親しむ] D [海を活用する]

4年生 総合的な学習の時間

「小木発信プロジェクト～小木の町をPRしよう～」

能登町の小学4年生

亀岡市立吉川小学校4年生

他地域との産業・環境の違い  
ふるさとへの愛着・地域理解

## 2.活動紹介・実践例

# 環境・地域学習 B [海を知る] C [海を守る]

5年生 総合的な学習の時間  
「環境問題について考えよう」

### 課題の設定

海洋ごみを減らすためにできることを考えよう。

#### 自分ができること

- ・漂着ゴミの回収しゅう
- ・ゴミとリスク・ゴミと被害
- ・ゴミをすてないように気をつける

- ・ごみを海に捨てない。
- ・見つけたら拾う。(捨てる物は)
- ・よびかけをする(ポスター・CM・SSC放送)

#### みんなの力でできること

- ・ボランティア活動のよびかけ
- ・マイバックを使う
- ・海のごみを拾う(海上保安署)・リサイクル

- ・ごみステーションを漁協の近くにつくる
- ・ボランティア活動をする(ごみ拾い)
- ・ごみ問題のことをCMなどで伝える

できるだけ、くろもちあいでごみかあた  
り拾う。  
ごみを拾えない  
ポスターを作る  
ごみ箱を置く  
その日によって拾うごみを決める

呼びかけ

→ 小木の人

→ 能登町の人

- ・みんなでごみを集める  
→ごみイベント(月に1-2回)
- ・法律を作る(すてない)
- ・ごみ拾いの日

えらい人 競争  
町長さん

偉い人の協力

町長さんに提案書

2.活動紹介・実践例

## 環境・地域学習 B [海を知る] C [海を守る]

5年生 総合的な学習の時間  
「環境問題について考えよう」

能登町の有線放送

能登町の行政機関

ふるさとへの誇りと愛着  
思考力・実践力・行動力



2.活動紹介・実践例

## キャリア学習 A [海に親しむ]

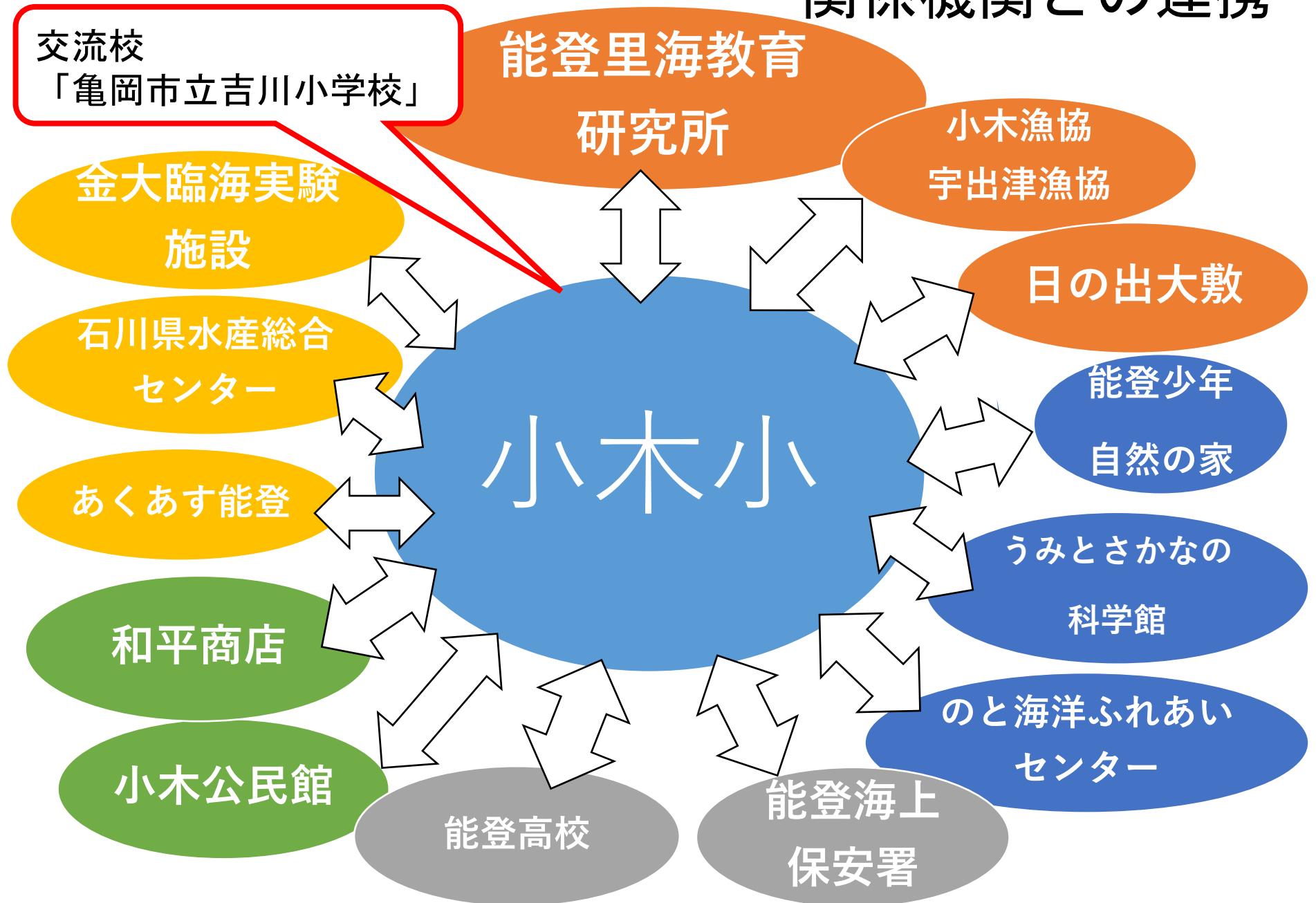
6年生 総合的な学習の時間  
「漁師の仕事を知ろう」



**仕事・地元に対する思い**

## 2.活動紹介・実践例

# 関係機関との連携



3.パイオニアスクールとして

## R1. 8. 28 海洋教育研修会

対象：能登町内の小中学校の教員

内容：低・中・高・中学校部会ごとに  
各テーマを設定

→①フィールドワーク

②小木小学校実践例紹介

③ワークショップ

(自校のカリキュラム作成)

アドバイザー：能登里海教育研究所

3.パイオニアスクールとして

# 海洋教育研修会～フィールドワーク～

低学年部会...海に親しむ



中学年部会...海を守る



児童・生徒の気持ちになって

高学年部会...海を知る



能登町立松波中学校協力  
中学校部会...海を活用する



3.パイオニアスクールとして

# 海洋教育研修会～ワークショップ～



小木小職員  
能登里海教育研究所  
↓  
カリキュラム作成  
→共有・意見交換

## 海洋教育研修会 ～参加者の声～

- ・フィールドワークから，改めて子どもが感動するポイントに教師も一緒になって感動し合うことは，素敵だなと思いました。他校との比較で，考察する方法やアプローチの仕方を学びました。
- ・海洋教育を通して，物事に対する視野を広げたり，探求心を引き出したりする可能性を感じました。単元計画では，自ら課題を立て，情報収集→整理・分析→新たな課題設定へと発展的に学習活動を繰り返す大切さを実感できました。

## 4. 来年度に向けて

# 総合的な学習の時間 年間指導計画

令和2年度 第5学年 「総合的な学習の時間」年間指導計画

学年テーマ		海と私たちの関わりについて		
めざす児童の姿	他教科の学習内容と関連させ「海を知る」ことを通して、海への関心を高め、海と人との共生のための「海を利用する」や「海を守る」ことの大切さを感じるとともに、自然環境と人々の生活との関わりを大切にすることを養う。	資質・能力		
実施月	4月	5月	6月	
単元・活動の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○BTから海洋ごみ問題について調べよう。</li> <li>◇小木の海洋ごみ問題について調べよう。</li> <li>・各町内のごみ調査に出かける。</li> <li>☆ごみ拾いの結果を表に記録する。</li> <li>☆小木のごみマップにまとめる。</li> <li>◇イカす会に参加しよう。</li> <li>○活動に参加し、イカす会後の清掃活動に参加しよう。</li> <li>・ごみの発生源と理由を考える。</li> <li>○小木の海中ごみを調べる。</li> <li>・何が落ちていたのか考える。</li> <li>・なぜ海中にもごみが落ちているのか考える。</li> <li>☆海中ごみの種類を調べよう。</li> </ul>			
評価方法	・活動の様子 ・情報や資料などのふり返し	・情報や資料などのふり返し ・成果物	・情報や資料などのふり返し ・成果物	
指導体制	・能登里海教育研究所 ・能登海上保安署	・能登里海教育研究所 ・能登ほっとライン(有線放送)	行政機関	
教科等の関連	【社会】【理科】【里海科】	【社会】【理科】【里海科】 【プログラミング教育】	【里海科】【国語】	

**探究的な学習における児童の学習の姿**

■ 日常生活や社会に目を向け、児童が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。

- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

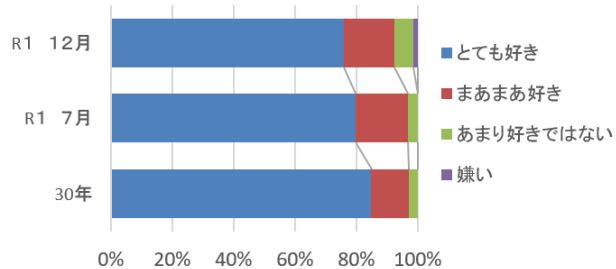
### 新学習指導要領 サイクルを意識

◇課題の設定   ○情報の収集   ・整理、分析   ☆まとめ、表現

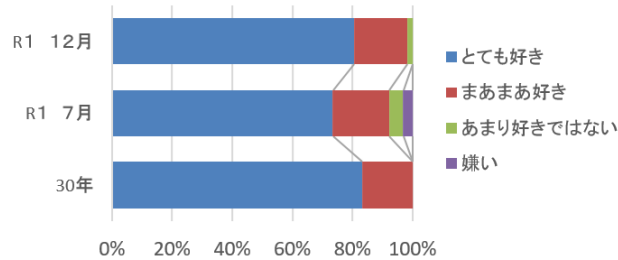
## 5. 成果と課題

# 児童用アンケートより

①海での体験活動は好きですか？



②小木の海は好きですか？

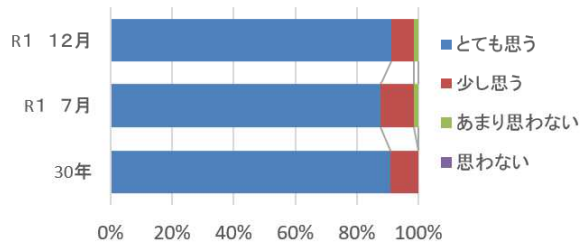


- ②～⑤の数値が上昇

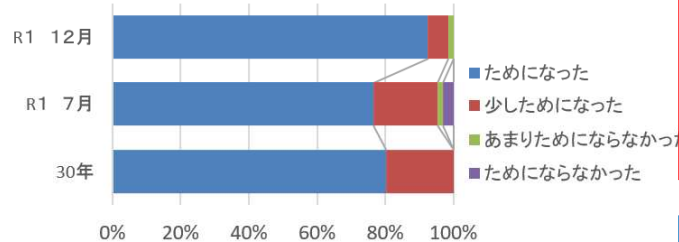


- 学びの楽しさ  
必要性を実感
- 海や町への愛着  
がより芽生えた

③海を大切にしようと思いますか？



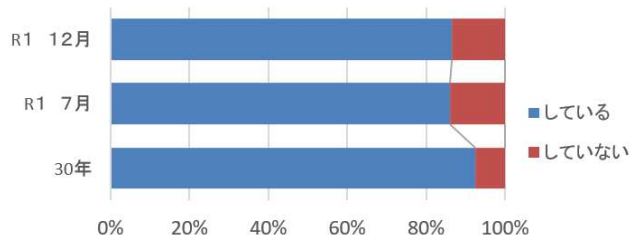
④里海の勉強をして自分のためになりましたか？



- ①が減少



⑤地域行事に積極的に参加していますか？



- 海の恐さを実感  
→防災教育  
(小中連携による)

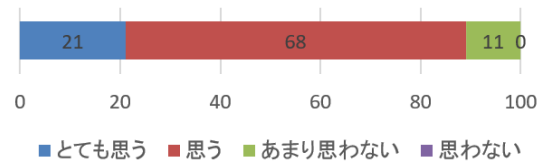


## 5. 成果と課題

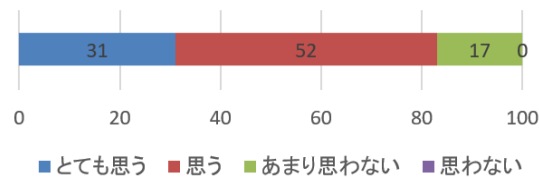
# 保護者用アンケートより

### I 本校の海洋教育について

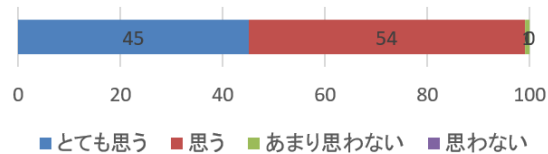
①子どもたちが、どんな里海学習・活動をしているか知っている。



②里海学習・活動が地域振興に役立っていると思う。

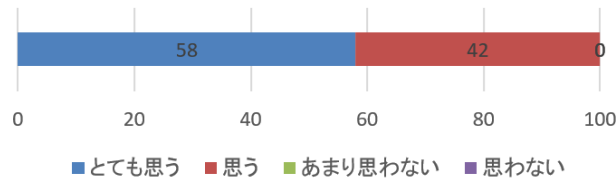


③海洋教育(里海学習)は必要だと思う。

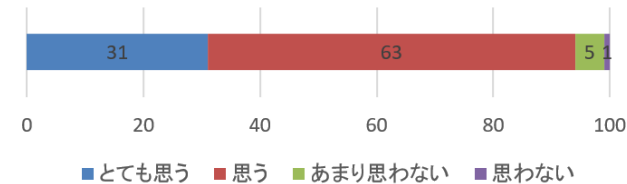


### II 子どもたちの様子

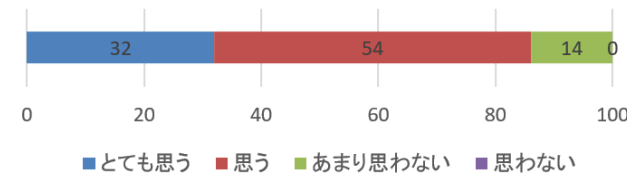
①子どもは、里海学習・活動に熱心に取り組んでいる、楽しみながら学んでいると思う。



②子どもは、ふるさとの海や小木の町のことを考えるようになってきていると思う。



③子どもは、ふるさとの誇りや愛着を持つようになってきていると思う。



・ 肯定的回答



・ 海洋教育の  
必要性・意義を  
理解している  
・ 子どもと共に親  
も関わる

・ I ②③とII ③で  
否定的回答



・ 発信の弱さ  
・ 学習活動と親の  
思いのズレ  
・ 地域との関わり  
の薄さ

## 5. 成果と課題

### 成果

- ・ 児童の小木の海に対する興味・関心の向上  
→ 地域への愛着・探求心も向上
- ・ 海に対する視野・考えが広がった
- ・ 知識と体験の一体化  
→ 課題意識，探求姿勢の定着  
→ コミュニケーション力の定着  
→ 学力と結びつく
- ・ 縦のつながり，サイクルの意識

#### 4. 成果と課題

### 課題

- 学びを実感できる指導力の向上
  - 1学期から「楽しい」「やってよかった」と思えるように工夫する
  - 児童も教師も
- 職員による更なる研修の充実
- 地域，保護者への発信
- 地域人材を活用した学習内容の見直し

最後に...

## 海洋教育の良さ

子どもと一緒に教員も学べる

(海の良さ・楽しさ・海にかかわる事象)



# 能登町の海洋教育



## 小木小学校の特徴

関係機関が隣接

年間通して海洋教育を実施

地域に根付いた学習内容を発展

ご清聴  
ありがとうございました

